

群 教 セ	I01 - 04
	令5.284
	特 - 知的障害

# 活動に十分に見通しをもち、 自ら取り組める生徒の育成

——自立活動における活動環境の構造化を通して——

特別研修員 河内 英恵

## I 研究テーマ設定の理由

研究協力校中学部の生徒Aは自閉的傾向が強く、活動に集中できなかつたり、取り組めなかつたりすることが多い。さらには、他害行為や自傷行為などの二次的な問題行動に及ぶが増えてきている。一方で、学校生活の中で繰り返される決まった活動には、落ち着いて取り組むことができる。また、よい関係を築けている教師や他生徒とは関わりを楽しむことができる。これらのことから、生徒Aは、活動や活動環境に見通しをもつことで、落ち着いて活動に取り組むことができると考えた。このことを足掛かりに、まず自立活動において生徒Aが取り組める活動を増やしていきたいと考えた。

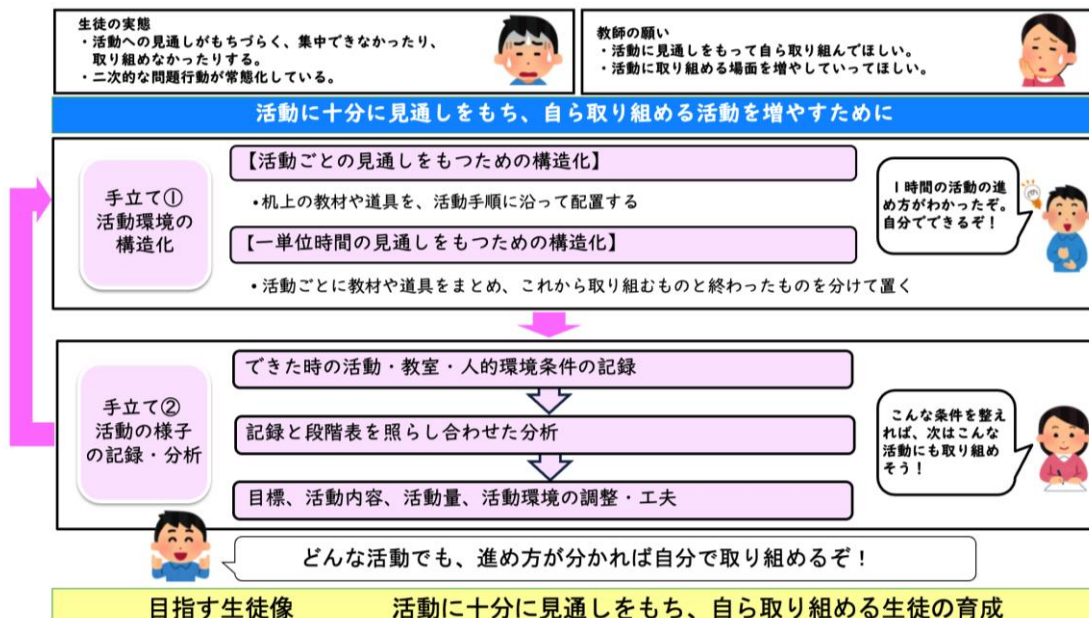
特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編第6章2(1)情緒の安定に関することでは、「情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること」が示されている。また2(2)状況の理解と変化への対応に関することでは、「場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けること」が示されている。

生徒Aの自立活動においては、生徒Aの情緒が安定した状態で、活動における諸条件の変化に対応して取り組めるようにすることが求められる。自立活動における個別の学習において、整えられた活動環境、人的環境の中で活動に取り組めるよう諸条件を調整・工夫することで、生徒Aは1単位時間の活動に見通しをもって取り組むことができるようになり、それを繰り返すことで十分に見通しをもって自ら取り組めるようになる。さらに、このような経験を積み重ねることで、やがては自立活動以外のどんな活動においても、活動環境を整えることで同様にに取り組めるようになる。と考えた。

そこで、本研究では、活動環境の構造化と、活動の様子の記録・分析を手立てとした、「活動に十分に見通しをもち、自ら取り組める生徒の育成」を主題に設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

生徒Aが自立活動において、活動に十分に見通しをもち、自ら取り組めるようになるために、以下の手立てを設定した。

### 手立て1 活動環境の構造化

生徒Aが、見て「分かる」、自分で「できる」ようにするための活動環境の構造化を行う。活動の手順に沿って教材を机上に配置し、生徒がその配置を見ることで活動の手順を理解し、見通しをもって取り組めるようにする。また、活動ごとに教材をまとめておき、これから行う活動の教材と終わった活動の教材を置く場所を分けて設置しておくことで、生徒Aが1単位時間の活動数や進み具合を視覚的に見通せるようにする。

### 手立て2 活動の様子記録・分析

自立活動の各単元及び各時間において、できるようになった活動、できた時の活動環境、教室環境、指導する教師や同じ場で活動する他生徒等の人的環境などの条件について、変容を注意深く見取りながら記録する。成長の様子を、生徒の実態に合わせて別途作成した「自立活動における活動環境条件についての段階表」「学習活動全般における人的環境条件、学習形態条件についての段階表」と照らし合わせて分析し、目標を段階的に引き上げる、活動量を増やす、活動内容を発展させる、環境条件を広げるなどの調整や工夫を行うことで、生徒Aが諸条件の下で自ら活動に取り組めるようにする。

単元の学習を実施している際には、手立て2の活動の様子記録・分析を毎授業終了後に行う。活動の諸条件が生徒に適していない場合には、手立て1の活動環境の構造化や活動の内容・手順などを見直し、調整・工夫を行うようにする。また、活動に十分に見通しをもち自ら取り組めた場合には、活動量、支援する教師、同じ場所で活動する他生徒などの条件を発展的に調整・工夫する。

次の単元を構想する際には、前単元を通した活動の様子記録を、手立て2の各段階表に照らし合わせて分析し、活動内容、活動手順、活動環境の構造化の仕方、活動数、活動量、支援する教師、同じ場所で活動する他生徒の人数・組み合わせ、活動場所などを発展的に調整・工夫する。

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 机上の活動環境を構造化し、手順に沿って左から右に教材を並べたことで、生徒Aが一つの活動に見通しをもち、その手順に沿って自ら取り組むことができるようになった。
- 活動ごとに教材をまとめておいたことで、生徒Aが1単位時間の活動数、活動の進み具合を見通せるようになり、全ての活動が終わるまで集中して取り組めるようになった。さらに、準備や片付けに自ら取り組めるようになった。
- 活動を繰り返すことで生徒Aの活動への理解が深まり、次第に活動の進め方や教材・道具の配置を自分なりに工夫して意欲的に取り組むようになった。
- できた時の活動環境や教室環境、人的環境などの条件についての記録と、段階表を照らし合わせて分析し、諸条件を調整・工夫したことで、生徒Aが適切な目標、活動内容、活動量、活動環境の下で、意欲的に活動に取り組むことができた。

### 2 課題

- 今後、活動に取り組める場面を他教科へとつなげていくために、自立活動で取り扱う教材を他教科の内容に関連付けて設定していく必要がある。

## 実践例

### 1 単元名 「三つの活動をやりとげよう」（第3学年・2学期）

### 2 本単元について

本単元は、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編第6章2(1)「情緒の安定に関すること(2)状況の理解と変化への対応に関すること」に関連付けて設定したものである。構造化された活動環境の中で活動に繰り返し取り組むことで、活動を十分理解し、自ら取り組めるようにする。本単元を構想するに当たり、目標、活動内容、活動量、活動環境などの調整・工夫を行うための手立て2について、以下のように行った。

#### 手立て2 活動の様子記録・分析

##### ○ 記録と段階表を照らし合わせた分析

##### 生徒Aの前単元の様子

表1 生徒Aの活動の様子記録（自立活動の前単元における記録から抜粋）

③	20	学習室2	やや安定	①タレ瓶 ②メモ帳2部	自立	左から右	1	「店長さん」と伝えると笑顔を見せる。教材ボックスの上に構造化の写真を貼り付ける。自分で用意する場面では、①タレ瓶10個 ②メモ帳は声掛けで置くことができる。	6	1
---	----	------	------	----------------	----	------	---	--	---	---

##### 前単元で到達した生徒Aの姿

表2 生徒Aの自立活動における活動環境条件についての段階表（抜粋）

段階	活動環境条件
7	1時間単位の活動に見通しをもち、自ら取り組んでいる
6	複数の活動に、手順に従って、自ら取り組んでいる
5	複数の活動に、手順に従って取り組んでいる（それぞれの活動に）

表3 生徒Aの学習活動全般における人的環境条件、学習形態条件についての段階表（抜粋）

段階	人的環境条件、学習形態条件
2	個室で担任以外の教師と個別の活動に取り組んでいる
1	個室で担任と個別の活動に取り組んでいる

##### 本単元で目指す生徒Aの姿

表4 生徒Aの自立活動における活動環境条件についての段階表（抜粋）

段階	活動環境条件
7	1時間単位の活動に見通しをもち、自ら取り組んでいる
6	複数の活動に、手順に従って、自ら取り組んでいる
5	複数の活動に、手順に従って取り組んでいる（それぞれの活動に）

表5 生徒Aの学習活動全般における人的環境条件、学習形態条件についての段階表（抜粋）

段階	人的環境条件、学習形態条件
2	個室で担任以外の教師と個別の活動に取り組んでいる
1	個室で担任と個別の活動に取り組んでいる

前単元までの生徒Aの自立活動の様子記録（表1）と各段階表を照らし合わせて分析した結果、活動環境条件についての段階表では6段階（表2）、人的環境条件・学習形態条件についての段階表では1段階（表3）に達していると捉えた。

##### ○ 目標、活動内容、活動数、活動環境などの調整・工夫

分析を基に、本単元では、活動環境条件について、段階表の7段階（表4）を目標とした。また、人的環境条件・学習形態について、活動環境条件が変わることによる生徒Aの負担感を考慮して、段階表の1段階を継続目標とした（表5）。

目標を受けて、本単元では、簡単な手順に沿って組み立てたり作成したりする、15分程度で終わることができる活動三つを組み合わせた1単位時間の活動に、個室で担任の教師と取り組むことで目標に迫ることができると考えた。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	1単位時間の活動に見通しをもち、自ら取り組みやり遂げることができる。 【2心理的な安定(1)情緒の安定に関すること(2)状況の理解と変化への対応に関すること】	
評価 規準	・ハンバーガー模型の組み立てを理解し、自ら取り組んでいる。 ・三つの活動に、決めた数だけ取り組んでいる。	
過程	時間	主な学習活動
つかい	第1・2時	・ハンバーガー模型の組み立て方を知り、取り組む。

進取する	第3・4時	・ハンバーガー模型の組立に自ら取り組む。
まとめる	第5・6時	・タレ瓶の組立、ハンバーガー模型の組立、メモ帳づくりの三つの活動に自ら取り組む。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第5時に当たる。本時ではタレ瓶の組立、ハンバーガー模型の組立、メモ帳づくりの三つの活動に取り組む。生徒が活動ごとの見通し、1単位時間の活動に見通しをもって自ら取り組めるよう、活動時に行う手立て1について以下のように具体化した。

#### 手立て1 活動環境の構造化

##### ○ 一つの活動の見通しをもつための構造化

活動の手順に沿って、教材や道具を机上の左から右に順番に配置(図1、図2、図3)することで生徒Aが一つの活動に見通しをもって自ら課題に取り組めるようにする。



図1 タレ瓶の組立



図2 ハンバーガー模型の組立



図3 メモ帳づくり

##### ○ 1単位時間の見通しをもつための構造化

活動ごとに教材を箱の中に入れ、これから取り組む活動の箱を机の左に、終わった活動の箱を机の右に置くようにすることで、活動の数・進み具合が見通せるようにする。(図4)。



図4 活動の数・進み具合を視覚化

## 4 授業の実際

### (1) 導入 本時の活動、めあてに見通しをもつ

導入では、ホワイトボードに本時の活動を文字と写真で提示することで、生徒Aがイメージできるようにした(図5)。離席せずに落ち着いて教師と本時の活動について確認する様子が見られた。



図5 活動内容の掲示物

### (2) 活動1 タレ瓶の組み立て

①タレ瓶容器と蓋を手取る②タレ瓶の蓋を閉める③指定された箱に入れる、の三つの手順で取り組んだ。タレ瓶の蓋を10個ずつに分け、10個を一区切りとしながら活動を進めることで、残りの数を確認する工夫をしながら取り組む様子が見られた(図6)。本時では、生徒Aからタレ瓶の数を増やして欲しい旨を教師に伝えてくる場面があり、意欲の高まりが感じられた。



図6 タレ瓶の組立

### (3) 活動2 ハンバーガー模型の組み立て

①具材(6種類)を順に重ねる②完成したハンバーガー模型を箱に入れる③指定されたケースに入れる、の三つの手順で取り組んだ。2個のハンバーガー模型を並行して組み立てる工夫(図7)をしながら取り組む様子が見られた。

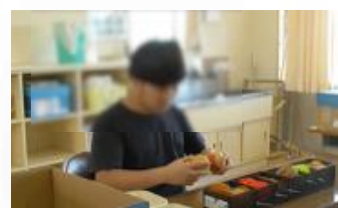


図7 模型の組立

### (4) 活動3 メモ帳づくり

前単元の三つの手順に④の手順を加えた、①裁断機で紙を切る②クリップで止める③表紙をつける④表紙にシールを貼る

の四つの手順で取り組んだ。道具を自分の使いやすい位置に置いたり(図8)、10枚単位で紙を数えたりするなどの工夫をしながら取り組む様子が見られた。

#### (5) 振り返り

振り返り活動では、本時の成果を「できたカード」を使って振り返った。掲示(図9)を見ながら、やり遂げることができたか確認してから「できたカード」を貼ることができた。三つの活動をやり遂げることができた旨を、教師に嬉しそうに話す様子が見られた。



図8 メモ帳づくり



図9 振り返り

### 5 考察

手立て1について、一つの活動の見通しをもつための構造化として、活動の手順に沿って、教材や道具を机上の左から右に順番に配置する構造化を行ったことで、生徒Aがそれぞれの活動の手順に見通しをもって取り組むことができるようになった。さらに、活動に繰り返し取り組む中で、自分のやりやすい方法で進めたり、教材や道具をやりやすい位置に配置したりするなどの工夫をするようになった。また、1単位時間の見通しをもつための構造化として、活動ごとに教材を箱の中に入れ、これから取り組む活動の箱と、終わった活動の箱を分けて置くようにしたことで、生徒Aが活動の数や進み具合を視覚的に捉えられるようになり、1単位時間の活動をやり遂げることへとつながった。また、活動中に手が止まったり、教師に支援を求めたりすることがほとんどなくなり、集中して取り組めるようになった。さらには、活動に使う教材・道具の準備や片付けにも自ら取り組めるようになった。

手立て2について、活動の様子の記録として、生徒Aの自立活動の様子を、活動時間、活動場所、活動前の気持ちの状態、活動数、活動内容、活動環境の構造化の手立て、指導者、学習形態、人的環境、活動の様子、諸条件の段階といった項目を立て、細かく観察・記録したことで、生徒Aが活動に見通しをもち、自ら取り組める条件を適宜把握できるようになった。そのことが、単元の途中での諸条件の適切な調整・工夫へとつながった。また、記録と「自立活動における活動環境条件についての段階表」「学習全般における人的環境条件、学習形態についての段階表」と照らし合わせて分析することで、その時の生徒Aの成長の段階を把握し、次の単元の目標、活動内容、活動量、活動環境の調整・工夫を行うことができるようになった。その結果、生徒Aが適切な諸条件の下で、意欲的に活動に取り組むことができるようになり、取り組むことができる活動数や活動量を増やしたり、活動できる環境の諸条件を広げたりすることができた。2学期途中の時点で、自立活動においては担任以外の教師とでも活動できるようになり、同じ学級の生徒と同じ活動場所で個別学習に取り組んだり、共通の課題に取り組んだりすることもできるようになった。

以上のことから、これらの研究上の手立ては、生徒Aが活動に十分に見通しをもち、自ら取り組めるようになるために、大変有効であったと考える。

一方で、自立活動で得られた成果を、学校生活の他の場面や他教科の学習に生かすというところまでは、まだ十分に至っていない。そこで、本単元の学習後、生活単元学習「地域の中学校と交流しよう」の中で、プレゼントを役割分担して作成する活動において、自立活動と同様の活動環境の構造化を行ったところ、クラスの他生徒と同じ活動場所で、ストローを材料としたストラップづくりの手順を理解し、自ら活動に取り組むことができた。また、一つのストラップに必要なストロー片の数を自ら計算し、ストローの色の組み合わせ順を確認しながら活動に取り組む様子が見られた。自立活動を通して培った、活動に見通しをもって自ら取り組むことや、自分がやりやすいように工夫することを他教科の活動に生かすことができた一つの姿であると言える。今後も、この研究を通して得られた成果を、生徒Aの他教科の学習を含む学校生活全般において、さらには、同様の実態のある児童生徒への支援に生かせるよう努めていきたい。

6 資料

『生徒 A の活動の様子と記録』

日付	活動時間	活動場所	活動前の気持ちの状態	活動数	活動内容	活動環境の構造化の手立て	学習形態	活動の様子	活動環境条件	人的条件活動条件
10/11(金)	③ 30	学習室 2	安定・眠気	①タレ瓶 30個 ②ハンバーガー 10個 ③メモ帳	自立	左から右	3	「タレ瓶」と名称変更。変更を受け入れていた。「タレ瓶と蓋しめ仲間」と発言。活動の数を「40個」にしたいとリクエスト。本人は落ち着いて活動できた。また、途中から友達の声が聞こえなかったが、活動中は集中して活動できていた。教員が、他の生徒の学習に行っても1人で取り組んでいた。メモ帳作成でA4からA5へのサイズ変更は難しかった。本人に嫌悪感。「むずかしー」と言いつつも、元の活動に戻すと落ち着いて取り組めた。	6	1
10/16(月)	③ 30	学習室 2	眠気 やや安定	①タレ瓶 30個 ②ハンバーガー 10個 ③メモ帳	自立	左から右	1	導入時、目標を説明。タレ瓶が入るBOXを開けると、「40個」「お魚増えた」と言い、配置図を見ながら教材を並べた。10個ずつ閉めること、製氷皿に入れていた。ハンバーガーは手順に慣れ、二つずつ取り組むことが多い。配置をする前に、組み立てを始めるため、声かけが必要。メモ帳作り配置の声掛けが必要。本人が取り組む前に、配置図の確認をさせることが必要。職員室で渡す際は、渡すことが段々と理解できてきた様子で、渡せるようになってきた。活動時間は35分間取り組めた。	6	1
10/18(水)	⑤ 50	学習室 2	安定・眠気	①タレ瓶 30個 ②ハンバーガー 10個 ③メモ帳	自立	左から右	1	【公開授業日】昼休みは昼寝。13:15起床し準備に入る。学習の流れを理解し、ホワイトボードを見て目標を読む。活動開始後は、準備を自発的に行う。途中活動が止まる場合のみ声掛け。どの活動も見通しをもって取り組むことができた。参観者が入れ替わる場面も落ち着いていた。鼻歌を歌う場面もあり、自分から準備片付けをすることができた。	7	1
10/20(金)	③ 35	教室	やや不安定	交流学習しおり作り	生単	左から右	5	しおりを左に置き、真ん中が書く活動、右が終わりボックスを用意し取り組んだ。最初は書く活動への抵抗感があったが、流れがわかるとホワイトボードを見ながら書くことができた。	4	2
	④ 40	教室	やや不安定	高等部見学	総合	左から右	5	上記と同じ、左→しおり 真ん中→書く、右→終わりボックスとし、左から右に流れるよう活動の環境を設定すると、同じように書いたり活動に参加することができた。	4	3
10/23(月)	③ 35	教室	安定	清流中との交流学習	生単	左から右	5	交流でプレゼントするストローストラップ作りに取り組む	4	3
10/25(水)	③ 50	学習室 2	やや安定	①タレ瓶 30個 ②ハンバーガー 10個 ③メモ帳	自立	左から右	3	「店長さんお願いします」の課題3つに、友達と一緒に取り組むことができた。活動を十分に理解し、離席もなく一単位時間の活動に見通しをもちトリックむことができた。	7	3
10/27(金)	② 40	教室	安定	清流中との交流学習	生単	左から右	5	・前時の学習でストラップを作成したため、しおり学習からプレゼントを作ることを知り、落ち着いて活動に取り組めた。左から順に物を置くだけで活動の流れが理解できていた。見本を提示し「20本を3回通します」と教員が声掛けをする。『60本、20×3はこれ』と数字を指す。クラスの友達と同じ空間で活動に取り組むことができた。(離席なし)(集中していた)	4	4
	③ 50	学習室 2	やや安定	①タレ瓶 30個 ②ハンバーガー 10個 ③メモ帳	自立	左から右	3	担当教員以外と、活動に取り組むことができる。活動を十分理解しているため、一単位時間取り組むことができた。教材の位置を工夫し取り組むことができた。繰り返し取り組むことができた。	8	3
10/30(月)	③ 50	移動	安定	ハロウィンパーティー	生単	左から右	5	ハロウィンのウォークラリーをする際に、シールを貼る位置を左から右に統一。	5	4

『生徒 A の自立活動における活動環境条件についての段階表』

段階	活動環境条件
8	7に継続して取り組んでいる
7	1時間単位の活動に見通しをもち、自ら取り組んでいる
6	複数の活動に、手順に従って、自ら取り組んでいる
5	複数の活動に、手順に従って取り組んでいる(それぞれの活動に)
4	一つの活動に、手順に従って、自ら取り組んでいる
3	一つの活動に、手順に従って取り組んでいる(促しあり)
2	教師と一緒に、一つの活動に取り組んでいる
1	活動に興味をもっている(教師の手本を見る、一緒にやってみる)

『生徒 A の学習活動全般における人的環境条件、学習形態条件についての段階表』

段階	人的環境条件、学習形態条件
6	他の学級の生徒のいる活動場所で共通の活動に取り組んでいる
5	他の学級の生徒のいる活動場所で個別の活動に取り組んでいる
4	同じ学級の生徒のいる教室で共通の活動に取り組んでいる
3	同じ学級の生徒のいる教室で個別の活動に取り組んでいる
2	個室で担任以外の教師と個別の活動に取り組んでいる
1	個室で担任と個別の活動に取り組んでいる